
モンスターハンター ～風を司る殺戮者～

carzoo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンター ～風を司る殺戮者～

【Nコード】

N1858Y

【作者名】

carzoo

【あらすじ】

ある少年がいた。その少年は、風を足に纏い、全てをつきはなした。その少年にはなぜか温かい人が集まった。少年竜輝・葉桜は、何を思い何を司るのか……

第一話 風の殺戮者（前書き）

よろしく願いします

第一話 風の殺戮者

第一話

風の殺戮者

「やった！生まれたぞ」

「あたし達の子よ！」

「だが、血が足りない！」

「どうすればいいのよ！この子を殺すの？嫌よ」

「だが方法が……そうだ！この古龍の血を……」

「嫌よそんなの！この子にどんな作用を及ぼすか」

「もう、これしかない！入れるぞ！」

「何？これ」

「風が足にまわりついて……」

そこはモンスターと人が共存する世界、その世界で、ある、少年が生まれた。後に殺風^{のち さつふう}と呼ばれた少年が。

そこは、東シユレイドのハンターの中心都市トーサカ、そこに、ある少年が座っていた。

歳は12、3歳、そこに座っていて大丈夫かと思うような人間だ。しかし、その少年が纏っている防具と武器は、ただならぬものだった。

防具は、リオレウス希少種^{きせうしゆ}、通称銀リオレウス。と呼ばれるものの素材から作られた、Sソル^{シルバー}・Zシリーズ^{ゼット}。最強ランクのハンター、G級ハンターしか作ることのできない装備だった。

武器は、身の丈以上の大刀、いわゆる大剣と呼ばれるものだった。今背負っているのは、輝剣リオ・デル・ソルという、銀リオレウスと炎王龍テオ・テスカトルから、作られたものである。

少年の名は竜輝^{りゆうき}・葉桜^{はなづき}。職業はハンター。

彼には、誰も近づかないと言つか近づけない。彼の発する雰囲気近づくなといっているから。

その彼に近づくものがいた。このギルドのマスターだ。彼は陽気な口調で

「竜輝よう、ちょっと聞いてくれぬか？」

「何だよ。しょうもねえ用だったら、とばすぞ」

不機嫌な表情で返答を返す。マスターは、ちょっと笑って。

「西シユレイドのとある村に行つてほしいんだが……」

「ああ、殺すぞ馬鹿。何で俺が行かなきゃなんなんだよ」

「いや、もう決めちゃったんだよね」

「は？つぎっけんなよ。くそじじい」

「じゃっ、明日には、」【イージス村】にいつてね」

「っち！めんどくせエ」

そして、ここから、竜輝・葉桜のイージス村での生活が始まる。

第二話 新たな地（前書き）

どうもです。なんかもうお気に入りに入れてくれてる人がいるみたいで感謝かんげきです。ではどうぞ

第二話 新たなる地

第2話

新たなる地　そして弟子？

船で揺られること3日間、竜輝は、目の前に断崖絶壁のある港にたどり着いた。そしてそこには、ロープウェイのようなものがついている。

「これで登れって？冗談きついで。」

愚痴愚痴文句を言いながらもそのロープウェイで上がっていった。そしてそこには門があった。高い城門に覆われた。竜輝はその門を、押すすると……

ギギギギギギギギギと不気味な音がして、そしてそこに広がっていたのは……

「っは？何打この門だけ立派に作りました敵なところ。」

ただの木の家がたくさん立っていた。そして唯一石で作られたところがある。そこがギルドであろう。

竜輝は、そこに向かって歩いていった。

そして、石畳の建物の近くに行くと、これまた奇妙な光景があった。なぜか、村人全員集合みたいな感じで、何かを準備している。その中心的な人物、おそらく村長であろうというような、小柄な竜神族に話しかける。

「なあ、あんたがこの村の村長か？」

竜輝が、話しかけると男は胸を張って

「そうだよ。僕がこの村の村長だ。つで？君は？今日トーサカからハンターがくるって聞いて歓迎の準備をしてるんだけど……」

村長が、不思議そうな顔をする。それに、竜輝はやれやれとした表情で……

「俺がそのハンターだよ。名前は竜輝・葉桜。これからよろしく。後、パーティはしなくていい。」

村長は、え？つとした表情になりそのままあせった様子で、準備していた人たちに集合を掛ける。

「みんなちよつとやめてきてくれ！ハンターさんが着たぞ！みんな挨拶して！」

「いや、あの村長そついうのはちよつと……」

村長が村人を集める。それを竜輝が困ったように対応する。村人達

は、次々に竜輝に期待のまなざしと、「これからよろしく」などと声を掛ける。一段らくしたところで村長が全員に竜輝の紹介をする。

「今日からこの村に居てもらうことになった、竜輝・葉桜君。じゃあ竜輝君自己紹介お願い」

「竜輝・葉桜。依頼は適当に受ける。あまり近づかないでくれ人が嫌いなんだ。以上」

つと簡単に竜輝は自分のことを紹介する。竜輝はそろそろ馴れ合うのが嫌になってきたので、村長に

「俺、狩り行きたいんで討伐系のクエストありますか？」

「そういうのはこの酒場の……優奈ちゃんに言うといいよ。優奈ちゃん」

「はい。何ですか村長？」

「竜輝君がクエスト受けたいんだけど何かない？」

つと優奈がこちらを向く。彼女は、金髪のスレートヘアに真っ白な体をしている。彼女は、竜輝を見て礼をすると、資料を出し依頼書を探し出して、

「それだったら……」「大変だ！みんな」……」

つとそこに男が乱入してきた。全員は何事だと言うように、男を見る。男はあせって話し出した。

「リンの奴がこの村のハンターはあたしだけだ！とかいってドスラ
ンポスを狩りに行きやがった」

「なんだって！！！！！！！！」

「ふん。優奈とかいったっけ？ドスラン狩りのクエストはあるか」

？」

「はい。一応ありますけど……」

村人はこんなときに狩りに行くのかと、竜輝を睨む。しかし、竜輝は微笑して、

「そいつをついでに助けに行く。依頼書を貸せ」

「いいのかい？」

村長が思案顔で聞いてくる。竜輝は今度は無表情で、

「いいからいくって言ってんだろ。早く貸せよ」

「はい。これです。」

優奈が、依頼書を出すと、竜輝はさっさとなまえだけかいて出て行ってしまった。

こうして、竜輝のリン救出クエストが始まったのだった。

第二話 新たなる地（後書き）

次回はドスランを狩ります。（瞬殺で）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1858y/>

モンスターハンター ～風を司る殺戮者～

2011年11月4日06時14分発行